

健康♪外来ニュース

膀胱炎

No. 48 令和5年4月15日

膀胱炎のリスクと痛み

症状や膿尿がない無症候性細菌尿は高齢の男性10%、女性20%に認めるが、治療の必要はない。ただし妊婦では早産、胎児死亡の誘因になるので治療する。尿の停滞(トイレを我慢する、残尿が多い)や糖尿病があると膀胱炎になりやすい。女性の尿道は4cm程で男性より短いので、性行為時や温水洗浄便座の使用時に肛門の細菌を膀胱へ侵入させる危険性がある。

排尿痛を感じる時期・・・

- ・排尿初期: 尿が炎症部位に初めて接触して痛む。尿道炎、前立腺炎。
- ・排尿終期: 膀胱が縮んで炎症のある粘膜同士が接触して痛む。膀胱炎。
- ・尿貯留時: 膀胱壁に尿が染みる。間質性膀胱炎。

膀胱炎とは

尿道から細菌(直腸の常在菌が多い)が感染して起きる膀胱の炎症。膿尿(白血球尿)と細菌尿を認める。

- ・単純性膀胱炎: 女性に多く、主に大腸菌が感染、冷え、疲労などが誘因となる。頻尿(1日8~10回以上、就眠中2回以上)、排尿痛(排尿終期に強い)、尿混濁、残尿感を生じる。通常は発熱なし。閉経後女性では治りにくく、再発しやすい。
- ・複雑性膀胱炎: 基礎疾患のある膀胱炎。前立腺肥大や神経因性膀胱など排尿障害がある高齢者に生じやすい。

治療は保温、水分摂取に心がけて、抗菌薬は再発を防止するために3~7日間十分量を投与する。

通常の膀胱炎と鑑別すべき病気・・・

- ・間質性膀胱炎: 細菌感染ではなく、バリア機能低下によって膀胱上皮に尿が浸透して炎症を生じる。尿が溜まると痛んで、頻尿、尿意切迫感を訴える。膀胱鏡検査で特有の発赤びらん(ハナ病変)が認められる。女性に多い。難病に指定。
- ・膀胱がん: 治療に難渋する膀胱炎症状に加えて血尿があれば、尿細胞診、膀胱鏡検査を行うこと。
- ・急性前立腺炎: 若い男性。大腸菌が前立腺に感染して、発熱、排尿痛、排尿困難を生じる。前立腺腫大・圧痛がある。
- ・尿道炎: 性行為の後日に、排尿痛と膿尿を認める。淋菌性では潜伏期3~7日、急に発症して症状は強い。クラミジア性では潜伏期1~3週間、穏やかに発症し症状は軽い。女性では子宮頸管炎、付属器炎、肝周囲炎を併発することがある。

「腎盂腎炎」とは

膀胱炎の細菌が尿管をさかのぼり、腎盂(尿管と腎臓の繋ぎ目)と腎臓に到達して起きる細菌感染症。片方の腎臓に感染することが多く、高熱、悪寒、背部痛を生じる。容易に菌血症などを起こして全身に広がる恐れがあるので、十分な抗菌薬投与が必要になる。なお、腎臓病でいう「腎炎」(腎臓の糸球体の障害で血尿や蛋白尿が出る病気)とは異なる。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋